
 日本藻類学会和文誌投稿案内

I. 編集の方針と投稿資格 本誌には藻学に関する未発表の和文論文、短報、速報のほか、総説、大会講演要旨、藻類に関する企画および投稿記事（採集地案内・分布資料・新刊紹介・シンポジウム紹介、学会事業案内など）を掲載します。論文および短報は和文誌編集委員会（以下編集委員会）が依頼する審査員による審査を経たのちに編集長によって掲載の可否が決定されます。速報およびその他の投稿原稿の掲載の可否は編集長と編集委員会とで判断します。なお、編集委員会が依頼した場合を除いて、投稿は会員に限ります。共著の場合、著者の少なくとも一人は会員であることが必要です。

II. 制限頁 論文は刷り上がり10頁、総説16頁、短報4頁以内を無料とします。頁の超過は制限しませんが、超過分については超過頁代（金額未定）が必要です。その他の報文、記事については、原則として2頁以内を無料としますが、編集委員会の判断で6頁を上限として超過を認めることがあります。速報は2頁以内とします。速報は超過頁と同じ扱いになりますので有料です。2,000字で刷り上がり1頁となる見当です。そのほか、折り込み頁、色刷りなどの費用は著者負担となります。

III. 原稿執筆・投稿要領 原著論文および短報は下記の様式に従って執筆し、オリジナルの原稿と図表各1組とそれぞれのコピー2組（写真を含む図版はこれを写真複写したもの。電子複写は不可）を編集委員会に提出してください。その他の報文については特に様式の制限はありませんが、最新の号を参照し、必要に応じて編集委員会に打診してください。また、原稿の種類を問わず、次の規則に従ってください。1) テキストファイル形式で保存できるワードプロセッサを用いて作成し、A4用紙に1行40字、25行で印刷する。2) 当用漢字、新かなづかいを使用する。3) 句読点は「、」と「。」を用い、「、」や「.」の使用は避ける。4) 学名と和名の使用：新種記載や学名の使用は最新の国際植物命名規約に従い、和名にはカタカナを使用する。5) 本文中ではじめて使用する学名には命名者名をつける。また、属と小名には下線を引き、イタリック指定をする。6) 単位系と省略表記：SI単位を基本とします。原稿中で使用できる主な単位と省略形は次のとおりです（時間：hr, min, sec, 長さ：m, cm, μm , nm, 重量：g, mg, 容積：l, ml, 温度： $^{\circ}\text{C}$, 波長：nm, 光強度：lux, $\mu\text{E}\cdot\text{m}^{-2}\cdot\text{s}^{-1}$, Wm^{-2} , $\mu\text{mol}\cdot\text{m}^{-2}\cdot\text{s}^{-1}$ など）。そのほか、執筆にあたっては以下の投稿原稿の構成およびワープロ入力の注意の項を参照ください。

投稿原稿の構成 原著論文は、1) 標題、2) 英文要約、3) 本文、4) 引用文献、5) 表と図およびその説明（英文）の順にまとめてください。短報は本文の構成が異なる点を除いて、原著論文に準じます。

1. 標題と要約 欄外見出し（英文25文字以内）、標題、著者名、所属、住所、著者名（英文）、英文標題、英文要約（200語以内）、英文キーワード（5-10語、アルファベット順）、著者名（英文）、宛先（英文）の順に記入してください。
2. 本文 論文は原則として緒言、材料と方法、結果、考察（または結果と考察）、謝辞で構成されます。短報ではこれらの項目を区別せず、一連の文章にすべてが含まれるように構成してください。原著論文、短報とも必要に応じて図（線画や写真）や表を用い、原稿中にそれぞれ挿入を希望する位置を指示してください。本文中での文献、表および図の引用は次の例に従ってください。
 細胞表面には多数の突起がある(Fig. 5, Figs 7-9)。 が知られている (Yamada 1949, Yamada and Yamada 1950, Yamada *et al.* 1951)。岡村 (1907, p.56)は、 を示している。 の大きさには地域により明瞭な差異が認められる(Table 3)。
3. 引用文献 本文中で引用したすべての文献を著者名のアルファベット順に列挙してください。原著論文と単行本、叢書中の分冊等では引用の方法が異なります。下記の例にならってください。

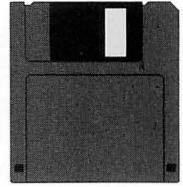
- (単行本) 岡村金太郎 1936. 日本海藻誌. 内田老鶴圃, 東京.
Christensen, T. 1994. *Algae. A taxonomic Survey*. AiO Print Ltd., Odense. (著者, 出版年, 標題, 出版社, 出版社の所在地の順)
- (単行本中の1章) 有賀祐勝・横浜康継 1979. 光合成・呼吸の測定. p. 413-435. 西澤一俊・千原光雄 (編) 藻類研究法, 共立出版, 東京.
Drebes, G. 1977. *Sexuality*. p. 250-283. In: D. Werner (ed.) *The Biology of Diatoms*. Blackwell Sci. Publ., London. (著者, 出版年, 引用した章の標題, 同掲載頁, 編者, 単行本標題, 出版社, 出版社の所在地の順)
- (叢書中の分冊) Krammer, K., Lange-Bertalot, H. 1986. *Bacillariophyceae. 1. Teil: Naviculaceae*. In: Ettl, H., Gerloff, J. and Heynig, H. (eds.) *Süßwasserflora von Mitteleuropa*. No. 2/1. Gustav Fischer, Verlag, Stuttgart. (著者, 出版年, 引用した章の標題, 編者, 単行本標題, 版番号, 分冊番号, 出版社, 出版社の所在地の順)
- (雑誌中の1論文) 筒井 功・大野正夫 1992. 和歌山県白浜産クロメの成長・成熟と形態の季節的变化. 藻類 40: 39-46. (著者, 出版年, 論文標題, 雑誌名, 巻, 同掲載頁の順)
Yoshida, T. and Silva, P. C. 1992. *On the identity of *Fucus babingtonii* Harvey*. *Jpn. J. Phycol.* 40: 121-124. (著者, 出版年, 論文標題, 雑誌名, 巻, 同掲載頁の順)

4. 表と図, および説明 表と図は印刷版下として使用しますので原寸大で作成してください。印刷頁は2段組みで幅14 cm, 1段で幅6.6 cm, 縦20.4 cmです。表, 図ともに説明のためのスペースを含めて印刷範囲に収まるように作成してください。写真は光沢印画紙に鮮明に焼き付け, 不要なスペースをカットしてレイアウトしてください。図や写真には倍率を示すスケールを入れ, 必要に応じてレタリング用の矢印や文字などを貼り付けてください。表の罫線は横線のみを用いるようにしてください。表, 図ともに, 脱落防止のためにカバーをつけ, その下端に著者名, 図の番号を記入してください。送付にあたっては, 厚手の紙で保護してください。

IV. ワープロ入力の注意 本誌はDTP (Desk Top Publishing)によって作成されます。掲載が決定された後, 最終原稿のファイルが保存されたフロッピーディスクを提出していただき, 編集委員会ではこれを用いて印刷版下を作成します。したがって, あらかじめ, テキストレベルでデータ互換が保障された(テキストファイル形式でファイルを保存できる)パーソナルコンピューター上のワードプロセッサまたはワープロ専用機で原稿を作成するようにしてください。互換性が不明な場合は編集委員会までお問い合わせください。編集作業を円滑に行うために, 原稿作成にあたっては次の点に注意して下さるようお願いいたします。1) 学名や英単語の区切り以外にはスペースキーを使用しない。2) 段落行頭や引用文献の字下げにはワープロのインデント機能を使用する。3) 改行 (リターンキー) の使用は段落の終わりだけに限定し, 1行ごとの改行の挿入はしない (DTP編集では, 改行コードの有無で段落を判断します)。4) 数字とアルファベットはすべて半角で, カタカナは全角で入力する。5) ギリシャ文字や独仏, 北欧文字を他の文字で代用しているときは, 出力原稿中に赤鉛筆でその旨明記する (例: üをu, μをu, éをe, ßをB, ØをOで代用など)。6) 数学記号などの特殊記号をワープロの外字で使用しているときは出力原稿中にその旨明示する。

V. 校正と別刷 校正は初校のみとします。DTPの最終割り付けが済み次第, レーザープリンター(300dpi程度の解像度)で出力したものを著者に送ります。ためし刷りですので写真等は最終印刷のイメージより劣ります。校正はレイアウトと提出したファイルからデータ変換が正しく行われているかを確認するとどめ, 図や写真の最終チェックは編集委員会におまかせください。校正は受領後3日以内に編集委員会あて返送してください。別刷は原著論文, 短報, 総説に限り50部を学会で負担しますが, それ以外は有料です。校正送付時に同封される別刷申込書に所定の事項を記入して返送してください。

藻類 DTP Desk Top Publishing



編集後記とお願い

和文誌編集委員会 井上 勲

43巻1号の最終割りつけを終えたら、1頁の空白が生まれました。この場を拝借して編集後記とお願いを記したいと思います。

ご承知のように、和文誌は版下のほとんどすべてをパーソナルコンピュータで作成するDTPシステムを採用しました。これは第一に和文誌と英文誌の分割出版に伴う印刷経費の増加を少しでも軽減するためでした。しかし同時に、校正のミスや負担を軽減するという積極的な目的もありました。実際に開始して、初期の目的をほぼ達成できるという見通しのほかに、多彩な割りつけができること、また使用できるフォントやロゴの種類が大幅に増すなど、編集の自由度が向上することもわかってきました。ドラスティックな変化を望まないむきもあることを考慮して、今回は従来のスタイルを大部分踏襲し、変化は最小限にとどめました。しかし、実際には商業誌のような自由なレイアウトが可能です。今後会員の方々の意見をうかがって、許容される範囲の変化をめざして行くべきと考えます。ご意見（苦言を含めて）を歓迎します。

さて、すでに42巻でDTPにかかわる入力上のルールを守ってくださるようお願いしましたが、残念ながらいただいたファイルの多くは著者の入力の癖が強く出ていました。なかには編集泣かせの「壮絶」なものもありました。著者も編集者も初めての経験でとまどった部分が多々あったため、これはやむを得ないところでしょう。フロッピー入稿のルールが定着するにはしばらく時間がかかりそうです。そのほか、昨年度提案し認めていただいた投稿規定が実際の編集作業にそぐわない点も出てきました。これから試行錯誤を繰り返して最も効率的なシステムを作り上げていくことになります。ご協力をお願いします。

原稿作成にあたっては次のルールを守って下さるようお願いいたします。

- 読点「、」の代わりに「,」を使用する。
- 数字とアルファベットは半角入力。
- カタカナは全角入力。
- スペースは英単語の区切りだけに使用。
- 表のカラムの区切りはタブを使用。